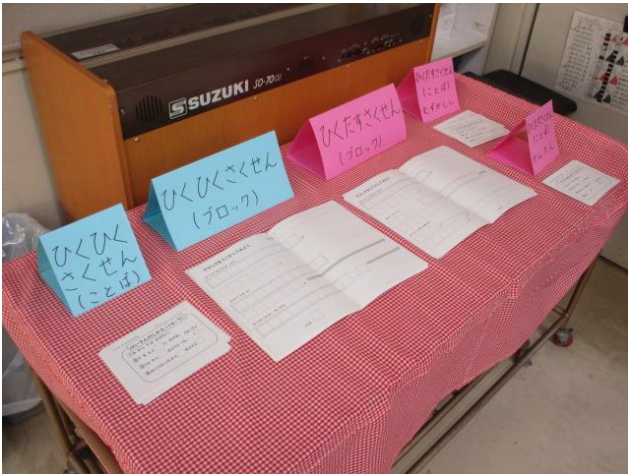
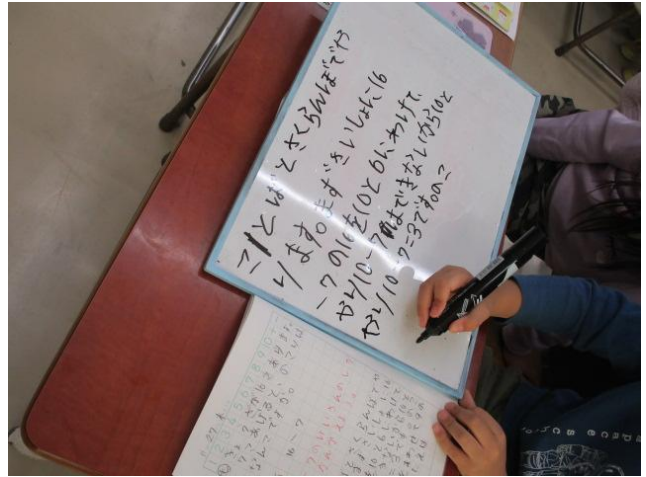


1年	算数科	くりさがりのあるひきざん	10時間
単元の目標	11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。		【到達目標】 達成すべき(児童が獲得すべき)具体的な内容や能力など。達成度を数値等で測定可能。
単元末における具体的な児童の姿	数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について A：操作や図、言葉で工夫して表現し、計算が確実にできる。 B：操作や図を用いて表現し、計算ができる。 C：教師の支援のもとに操作や図を用いて考え、計算ができる。	実際	ほぼ全員の児童が減加法や減々法をブロック操作や図で表現し、正しく答えを導き出すことができていた。3分の1程度の児童は言葉(文章)と組み合わせて、工夫して表現できていた。 当初、問題に応じて減加法と減々法から選択することを想定していたが、実際には確実に計算できる減加法を使って計算する児童が大半であった。
個人間差異	手だて		効果
① 到達度の違い	①・繰り下がりのある減法計算で、減数を分解する方法(減々法)があることを理解させる。 ・十いくつを「10といくつ」とみて、10から減数をひく良さを再確認させる。		○ ◎
② 考えを表現する力の違い	②・教師がさくらんぼで計算の仕方を説明する方法を示す。 ・ブロック操作をしながら説明させる。 ・計算の仕方カード(ヒントカード)をもとに、減法の仕方を説明させる。 ・計算の順序に沿ってブロックを動かせるよう、用紙に動かし方を印刷したものを準備する。		○ ○ ○ ○
成果	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減加法(被減数を分解して計算する方法)の良さをほぼ全員の児童が理解できた。 ・ブロック操作と図を関連づけることができるようになり、具体物を操作しなくても、数の操作をイメージして計算できるようになった。 ・自分に合った計算の仕方カード(ヒントカード)を選択することで、繰り下がりのある減法計算の仕方が身に付いた。 ・前単元から、毎時間ヒントカードを児童の実態に合わせて改善し、本時まで最適化することができた。	課題	・言葉(文章)と図を組み合わせて、計算方法を説明できる児童は全体の3分の1程度であった。 残りの児童の半分程度は、図やさくらんぼやブロック操作で正しく答えを導き出すことができた。 ・児童に一任すると自分に合った適切なヒントカードを選択できない児童もいた。個人の状況に応じて教師の声かけが必要であった。 ・振り返りをもとに次時の考えをもてる児童は少なかった。 ・振り返りカードの内容は再考が必要であった。(選択肢の文言等)



さんすう ふりかえりカード		くみ	なまえ
がくしゅう したひにち	☺ ☹ ☹	しきなてで ただしく けいさんできました。	14-8のけいさんのしかたがわかった。
		ひぶんのかんがえをともだちにつたえることができた。	ひぶんのかんがえをともだちにつたえることができた。
		よいかんがえをもつ ともだちをみつけた。	よいかんがえをもつ ともだちをみつけた。
		ともだち ( ) さん	ともだち ( ) さん
ようび			

がくしゅう したひにち	☺ ☹ ☹	16-7のけいさんのしかたをかんがえた。	10といくつにわけてひきざんできた。
		ひぶんのかんがえをともだちにつたえることができた。	5のれんしゅるもんだいがとけた。
		よいかんがえをもつ ともだちをみつけた。	6のれんしゅるもんだいがとけた。
		ともだち ( ) さん	7のれんしゅるもんだいがとけた。
ようび			

がくしゅう したひにち	☺ ☹ ☹	14-8のけいさんのしかたがわかった。	14-8のけいさんのしかたがわかった。
		ひぶんのかんがえをともだちにつたえることができた。	ひぶんのかんがえをともだちにつたえることができた。
		よいかんがえをもつ ともだちをみつけた。	よいかんがえをもつ ともだちをみつけた。
		ともだち ( ) さん	ともだち ( ) さん
ようび			

がくしゅう したひにち	☺ ☹ ☹	10といくつにわけてひきざんできた。	10といくつにわけてひきざんできた。
		5のれんしゅるもんだいがとけた。	5のれんしゅるもんだいがとけた。
		6のれんしゅるもんだいがとけた。	6のれんしゅるもんだいがとけた。
		7のれんしゅるもんだいがとけた。	7のれんしゅるもんだいがとけた。
ようび			